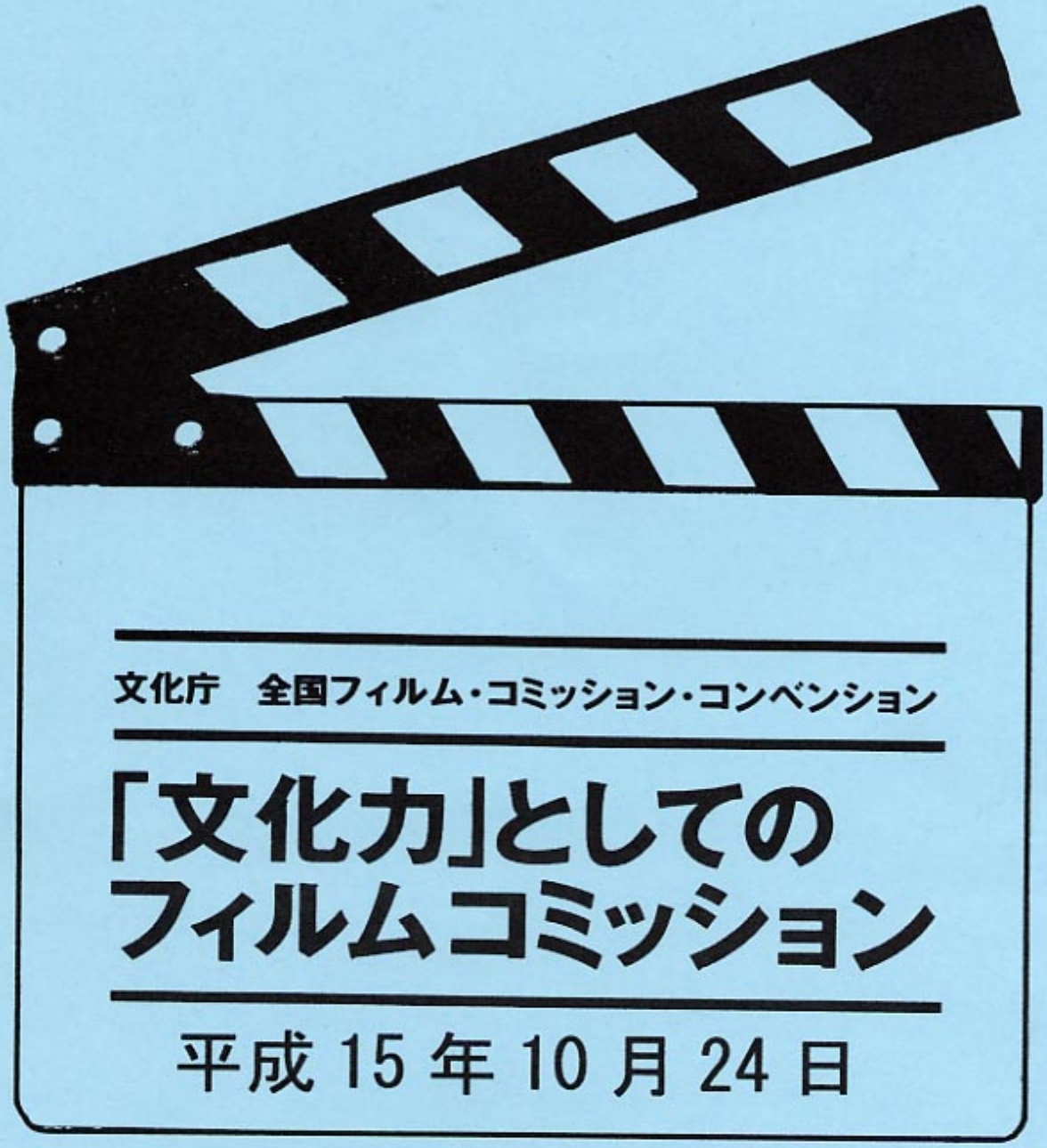


報　告　書

主催：文化庁

共催：全国フィルム・コミッション連絡協議会

目　次

開催概要____3

プログラム____4

開会挨拶____5

来賓挨拶____6

第１部 シンポジウム

「文化力」としてのフィルムコミッション____7

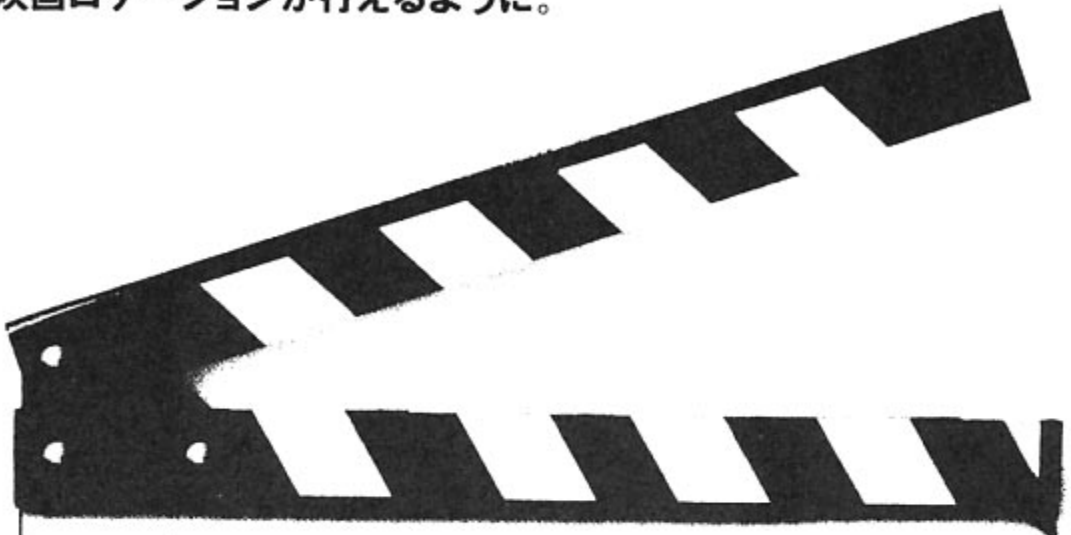
第２部 大討論会

ロケーション環境を考える____22

閉会挨拶____38

資料____39

いろいろな場所で、
もっと映画ロケーションが行えるように。



文化庁　全国フィルム・コミッション・コンベンション

「文化力」としてのフィルムコミッション

フィルムコミッションは、平成12年からわずか4年間に、北海道から沖縄まで全国各地に設立され、その数は50を超えています。その役割として観光・産業振興などの地域振興に大きな期待が寄せられていますが、同時に日本の映像文化の発展にも大きく貢献しています。フィルムコミッションの全国組織が、平成15年10月、東京国立近代美術館フィルムセンター内に事務局を設置することを契機に、「文化力」のひとつとしてフィルムコミッションを位置づける記念イベントを開催いたします。「文化力」向上の基盤としてのフィルムコミッションにご期待ください。

平成15年10月24日(金)｜13:00〜19:30

1部　**シンポジウム**
「文化力」としてのフィルムコミッション
出席者　山田洋次（日本映画監督協会理事長、全国フィルム・コミッション連絡協議会副会長）　西岡琢也（日本シナリオ作家協会常務理事）
高村倉太郎（日本映画撮影監督協会名誉会長）　亀山千広（フジテレビ 映画事業局長）　島田陽子（女優）　寺脇研（文化庁文化部長）

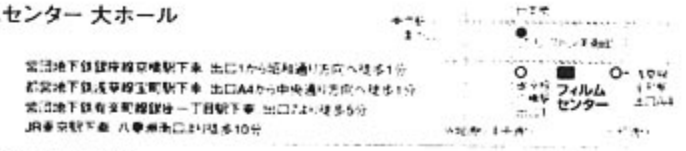
2部　**大討論会**
ロケーション環境を考える
出席者　フィルムコミッション、映画監督、プロデューサー、関係各省庁

3部　**懇親パーティー**

平成15年10月25日(土)　午前
SKIP CITY（埼玉県川口市）見学ツアー

場　所：東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール
東京都中央区京橋3-7-6

参加費：無料（事前申し込み制）



■主催：文化庁
■共催：全国フィルム・コミッション連絡協議会
■協力：東京国立近代美術館フィルムセンター
■後援：関係各省庁

お問い合わせ&お申し込み
全国フィルム・コミッション連絡協議会事務局［フィルムセンター5F］
Tel:03-3563-2525　Fax:03-3563-2526　E-mail:film@film-com.jp

文化庁

プログラム

● 平成15年10月24日（金）

13：00　開　場（2F大ホール）
13：30〜13：45　開会挨拶とメッセージ

［主催者挨拶］　文化庁文化部長　寺脇 研
全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事　前澤　哲爾
［来賓挨拶］　フィルムセンター名誉館長　高野　悦子

13：45〜15：15　第1部　シンポジウム　「文化力」としてのフィルムコミッション
出席者
山田　洋次（日本映画監督協会理事長、全国フィルム・コミッション連絡協議会副会長）
西岡　琢也（日本シナリオ作家協会常務理事）
高村倉太郎（日本映画撮影監督協会名誉会長）
亀山　千広（フジテレビ　映画事業局長）
島田　楊子（女優）
寺脇　　研（文化庁文化部長）

15：15〜15：30　質疑応答（事前に質問用紙を配布）

15：30〜16：00　休　憩

16：00〜17：30　第2部 大討論会　ロケーション環境を考える
出席者
成田　裕介（映画監督、日本映画監督協会常務理事）
田中　まこ（神戸フィルムオフィス代表）
亀山　千広（フジテレビ　映画事業局長）
境　真良　（経済産業省　商務情報政策局文化情報関連産業課　ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾃﾝﾂ課　課長補佐）
片山　敏宏（国土交通省　総合政策局観光部観光地域振興課　課長補佐）
坪田　知広（文部科学省　生涯学習政策局政策課　課長補佐）
モデレーター
前澤　哲爾（全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事）

17：30　　閉会挨拶　　全国フィルム・コミッション連絡協議会会長　大野隆夫

17：45〜18：00　休　憩（パーティー会場/上映会場へ移動）
18：00　　第3部　懇親パーティー（6F）
特別上映会「らくだ銀座」（109分）
（B1小ホール）

開会の辞

文化庁文化部長　寺脇 研

本日は全国からこれだけ大勢の方にお集まりいただき、日本で初めてフィルムセンターを使いまして、フィルムコミッション（以下ＦＣ）の全国会議を開く事が出来たわけでございます。 我々文化庁は、今までも映画の振興に係わってきた訳でございますが、どうも係わり方が量としても足りないのは勿論でございますが、質的にもこれでいいのかという問題意識というのがございます。

02 年 1 月に河合隼雄文化庁長官が就任され、長官も大変な映画ファンでございまして海外で大変ご活躍される中で、「映画というのは芸術の中で特別な存在なのだ。だから映画についてもっとちゃんと考えていくべきなんだ」という強いリーダーシップを発揮しているところでございます。他の芸術も素晴らしいものでありますが、映画はその国の文化を他の国に伝えていく非常に大きな特別な役割を持っているじゃないかというのが長官の考えでございます。

それに沿いまして、02 年の春から映画振興に関する懇談会というのを設けまして、03 年春まで約 1 年間をかけて、映画人や映画をとりまく様々な方々に御議論をいただきまして、今日の資料の中にも配らせていただいておりますけれども、懇談会報告書という形で、今後の映画振興に関する指針を出させていただいた訳でございます。

こういう指針は、指針を出してるだけでは駄目で、指針が出たらすぐ指し示している方向へ進んで行かなければならないということです。今年度は財務省から随分きびしいことを言われてますが、映画振興には昨年の倍額の要求をさせて貰いました。量的にも支えて行かなければいけないんですが、質的にも懇談会報告に沿った様々な変革を進めていこうという訳でございます。その意味で、ひとつの大きな柱として、映画を作る人達と映画を観る人、達支える人達との間をもっと緊密にしていかなければならないという考えに立ち、去る 9 月に大阪で映画祭の関係者に集まっていただき「映画祭の今後を考える」という催しを行いました。そして今後年１回は同様の催しをやって参りたいと思っている次第です。それに関連して、本日はＦＣというものについて考えていこうじゃないかという催しを持ちたいと考えて、この運びになった次第でございす。

私も先々週になりますか、韓国に伺いましてプサンの映画祭に参加させていただきました。会場で映画祭もさることながら韓国のＦＣの活動を色々聞かせていただきますと、日本のＦＣもこうやってどんどんどんどん盛んにはなってきてますがさらに一歩先をいっているのが韓国のパワー、観客のパワーであり、映画を支える人達のパワーなのかと感じた次第です。日本も是非、そういう風になれるように文化庁としても今後力を尽くして参りたいと思っております。その第一歩として今日の催しが盛会に終わりますことを祈念いたしまして、主催者としての開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

ご 挨 拶

全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事　前澤哲爾

専務理事をやっております前澤と申します。全国フィルム・コミッション連絡協議会は、ＦＣと映像制作の関係の団体、個人関係の方も含めまして 01 年 8 月に出来ました。今回、10 月 1 日から私どもの事務局が、このフィルムセンターの 5 階に開設することになりました。それまでは、国土交通省の関係の国際観光振興会というところに、お世話になっていましたが、文化庁にお骨折りいただきまして、こちらの事務局を使うことになりました。

私共はＦＣの人達が、共同で出来るだけ機能アップしていく様にサポートしております。すでに日本には 59 のＦＣがございます。数だけは、世界一です。機能的にこれからどんどんアップしていかなければならない時に、こうした形で文化庁に支援していただくようなイベントが出来ることになり、大変感謝しております。

ＦＣは、第 2 フェーズに入りました。ＦＣが設立することに対する支援から内容を詰めていく、所謂機能アップしていくという時代に入っております。色んな映像制作の方々のお知恵を拝借しながら、充実したＦＣになっていきたいと思います。

余談ですけれども、以前は国土交通省関連のところにいたので、よく「ＦＣは国土交通省のものだ」みたいな事を言う人がいました。今回文化庁の関係になったので、「文化庁の傘下ですか」なんて言われます。でも、私共は自立しております。全ての官庁から絶大な支援をいただいてやっていきたいと思っております。皆さんのご支援を賜りながら、もっともっとＦＣ活動が、日本に根付いて発展的に文化振興、地域振興も含めてやっていけたらと思います。本日は、ご参集いただきまして大変有り難うございました。この会場で 5 時半まで行い、引き続いてパーティーや上映会がございます。大変長いですけれども、是非、最後までお付き合いいただきたいと思います。どうも有り難うございます。

来賓ご挨拶

東京国立近代美術館フィルムセンター名誉館長 高野 悦子

本日は、全国からこのように沢山の方にお集まりいただきましたことを本当に感謝申し上げます。本当にご苦労様でございます。今、寺脇部長から話が有りましたが、私共映画人が昨年 4 月から本年 5 月まで 1 年かけて、「12 の提言」を文化庁長官に差し上げました。

その中の、「もっと日本映画を海外で観ていただくようにしよう」という項目につきましては、今年の 5 月にカンヌ国際映画祭のマルシェの中に日本映画のブースを文化庁に作っていただきました。

また、6 月にはフィルムセンターの 7 階に「映画の広場」というところが出来ました。何方でも自由に使える場所ですございますので、どうぞご利用いただきたいと思います。

そして第3弾として、10月1日に全国フィルム・コミッション連絡協議会の事務所を置いていただきました。

『ローマの休日』がローマ市のＰＲの為に出来た映画ではなくて、素晴らしい恋物語がローマで展開されることによって、ローマは観光地としても特に注目されることになり、今でもみんなから愛されております。このように映画の中に、美しいロケーション地があるということは、映画の為にこんなに素晴らしい事はない訳です。地域の色んな方達が、地方の魅力を映像を通じてという運動で、このＦＣが出来た訳でございますけれども、両方が相いまった時に美しい映画を通して、其処の所へみんなが行きたい、日本の人も外国の方もというようなことになることが一番素晴らしい事です。

私は文化の力というものを信じてきてきた者です。グローバル化になってアメリカのカラーが強くなるのではないかという意見もありますけれども、そういう時代だからこそ、おのおのの民族がその民族の素晴らしい文化を映画の中に発揮していただければ、素晴らしい映画も生まれるでしょうし、そして日本の顔も日本の力も世界に知らせる事も出来る。本当にこれから 21 世紀は、文化の力で進んでいって欲しいなとず一っと思っていました 1 人として、今回の会議が本当に嬉しく思うわけでございます。

今回の「12 の提言」の中で、私が一番嬉しかったのは、「映画を日本の国民の文化遺産として認める」とあり、文化として認めるという言葉が明記されていることです。その為には、日本の映画を出来るだけ収集し、保存し、そして後世の日本人に伝えていきたい。それは、日本人が日本人に、未来に送るプレゼントと同時に日本が世界に送るプレゼントでもあると思います。

映像の時代が来ておりますが、やはりその映像の基本は映画にあると思います。その映画を大切にすることにより、日本が豊かになる世界が豊かになるという夢を、ＦＣの皆様と共に進めていくことが出来ることならば、こんな幸せなことはございません。この会合が実り多くありますように、又、大衆の声、映画ファンの方の支持というものが一番大切な事になりますので、どうぞ各地で映画に対するご声援を賜りますように心からお願い申し上げまして、お祝辞に代えさせていただきます。有り難うございました。